

エッセイ、グランドファアザー

見るからに柔らかく、薄いピンクのソメイヨシノが散って、葉桜になった。

散歩道、両脇の林の中もすっかり緑に変わった。

ミドリ色に覆われた林の中、所々に自分たちの仲間を集めて、黄色や紫のワイルドフラワーが咲いている。

身を切るような寒さが遠のき、暑くもなく、寒くもない、それに湿気もなく過ごしやすい春になった。アラバマの春は豪華と言う表現がぴったり合う。

我が家の愛犬ハナも心なしか元気がいい。

もちろん私も毎日一緒に歩けることに感謝している。

チョット汗ばんだ肌に冬の名残を感じさせるそよ風が通り過ぎる。

ベンチに座って朝のコーヒーも最高の味である。

全てが平和で平穏で時間が気持ちよく流れている。

何となく若返ったような気持ちの昂ぶりを感ぜさせる素晴らしい朝である。

散歩道4～5年前は殆どの人がスマホを持たないで顔を前に向けて歩いていたが、近頃はほとんどの人が、スマホを見ながら歩いている。

よけいな事かも知れないが、お節介な気持ちにさせられる。

「・・・君達ちょっと見てみなさい。新緑ですよ、木々の枝先に若葉が溢れているでしょう、タンポポも咲いて、スマイレも小さい可憐な花をさかしているではないですか、それに春の空は薄いブルーの色、白い雲が溶け込んでいるようにみえませんか、もったいないですね、バカじゃないかと思う。何をそんなにスマホにかじり付いているんですか！スマホに囚われて仕舞っているようですね、世界が終わるニュースでもあるんですか！・・・春ですよ！新緑、花、青空、ハルデスヨ！」

首を下げながら携帯に見入っている人を見ると一言いいたくなる。

自慢じゃないが携帯、スマホあっちこちに忘れる。家人に何時も叱られる。

何度か郷田兄にも叱られたことがある。

「携帯だヨ！～意味わかるの！～、携帯、いつも何処に行くにも持って歩かないといけないの、しょうがないナ～、全くアラバマの田舎もんは！」である。

ちなみに私はコンピューターを使って、エッセイも物語も書くし、日本の各新聞も読む、が郷田兄は全くダメのようである。

1勝1敗である。

なぜか古希を過ぎたころから、よく私のスマホが鳴り出した。

・・・養老院、介護施設、保険屋、チョット変わって「FBI, warning・・・貴方の家のソキュリテ～、が心配です」・・・脅かされたが、何のことはないソキュリテ～の売り込みであった。

なんで最近、あっちこちから電話がかかってくるのか、家人に聞くと「貴方の歳が分かっているのだと思う・・・」エッ！である。

ボケ始めた老人と思って、金をふんだくろうと企んでいるようである。

まったくスマホだけで簡単に契約したり送金したりできるらしい。

もちろん私には出来るわけがない。

確かに便利の良い世の中になったが何かのセールスや、悪い奴らがスマホを上手く利用して、ちょっと頭の回転が遅くなってきた年寄りを誑かそうとしているように思える。

以前、私の秘書も兼ねている、アトランタのツトム師範が振り込め詐欺の事をいろいろと教えてくれた。

アメリカで始まったと言う人もいるが日本で先に始めたともいう人もいる。

どっちでもいい、大昔から悪い奴らはどこにもいるようだ。

前置きが長くなった。本題に入る。

・・・気持ちのいい朝の散歩から帰り、コーヒーを飲みながら TV のニュースを見ていたら珍しく私の携帯、スマホが鳴ったのである。

「オス～、ハロウ～」

「・・・ **grandpa** ,**グランパ**～、It's me. ～」

「ナヌ～、ナヌ～・・・？」

「grandpa ,**グランドパ**～、オレ、オレ～」

「オウ～、お前か～、ところで、お前は誰だ？」

「grandpa、**グランドパ**～、オレ、オレ・・・だよ！・・・」



私にはラウリー 10 歳とルビー 8 歳の二人の孫がいる。

孫はその二人だけである。二人とも私のことをグランドパーとは呼ばない。

グランパーの名称は娘の旦那の父親に先に取りられてしまった。

私は G,G である。これは私が勝手につけた。

グレイテスト・グランドファアザー {GREATEST GRANDFATHER} の略である。

だから「grandpa、グランドパ〜」と電話がかかってきた時、オウ・・・いよいよ私にも来たか、ちょっとした興奮を覚えた。
べつに待ってた訳ではないが、とうと俺も捕まったのかな？ピーンときた。

「お前の名前は何って言うの？」と聞く。相手は名前を言わない。

「オレ、オレ・・・」だけしか言わない。

そこで私が「オウ〜、お前か〜、ちょうどいい時に電話をくれた。そうか〜、お前か〜、良かった。良かった・・・」相手が「なんでいいの〜!？」と電話の向こうで戸惑っているような感じが伝わってきた。

私 {お爺さん} が「お金がほしい、送金してくれ〜、早く」と言う。

しばし「・・・・・・・・!？」沈黙が続いた。

その後「アイ ドン アンデスタンド ユー アー イングルシュ バイ」ガチャ、という感じでスマホをきられた。

ウ〜ン、惜しかった。もう少しでおコズカイ貰えたかもしれなかったのに。

残念である。オレ、オレ君。

ホント空手家でよかった。道場で若い人と稽古していると何となくではあるがまだまだ現役で有ると自覚している。

皆さん稽古は続けるべきです。

生涯修行 健康第一 オス